

7月の那覇市議選挙は、皆さまのご支持ご支援のおかげで3,342票で当選することができました。誰もが安心して、のびやかに生きることのできる社会を目指し、2期目もしっかり取り組んでいきます！2期目のスタートと共に紙面をリニューアルしました。ご意見・ご感想をお寄せください。



7月24日、当選証書授与式の後で記念撮影。左から中城村議の小橋川恵美さん、後援会事務局長の宮平のりこさん、後援会長の高里鈴代さん、糸数たかこ、前県議の比嘉京子さん、スタッフの比嘉美早紀さんです。

今回の通信は、新たな気持ちで迎えた9月議会を中心にお届けします。今後ともよろしく願います。

今回の通信は、新たな気持ちで迎えた9月議会を中心にお届けします。今後ともよろしく願います。

8月4日から新しい任期がスタートした那覇市議会では、瀬名波奎議員と新会派「うない・にぬふあ」を結成し、二期目の同期で頑張っています。私は会派長を務めています。

常任委員会は、都市建設環境常任委員会に所属しています。また、前期に引き続き沖縄県後期高齢者医療広域連合議会に那覇市選出の議員として決定しました。

2期目がスタートしました。今回の那覇市議選挙は、参議院選挙と同日投開票で、国政に注目が集まるなか、自分のことをどうアピールできているのか、手ごたえのないまま試行錯誤で取り組みました。若者に市議会活動に興味を持ってもらえるよう工夫し、SNS発信に力を入れました。

そうしたなかで、今回は元県議の比嘉京子さんの事務所を貸していただき、首里地区での新しい出会いをいただきました。「地域政党 沖縄つない」に入党し、保育や教育、福祉の問題と一緒に取り組む他市町村の議員の仲間ができたことは、今後の活動の財産になると思っています。

2期目がスタートしました

今回の那覇市議選挙は、参議院選挙と同日投開票で、国政に注目が集まるなか、自分のことをどうアピールできているのか、手ごたえのないまま試行錯誤で取り組みました。若者に市議会活動に興味を持ってもらえるよう工夫し、SNS発信に力を入れました。



茨城県水戸市でのJ-CAPTA総会に理事として参加してきました。こどもへの暴力防止に取り組む全国のCAPグループが集うなか、沖縄から北海道までの6人の市議会議員と県議1人が、円卓会議を持ちました。議会活動で大切にしていることや子ども政策についてなどを語り合い、グループ支援の一環として「子どもへの性暴力の根絶に向けた取組強化の意見書」の文案を提示。各地のグループが地域の実状にあわせて活用できるようにしました。

たかこの議員エッセイ

議員はそれぞれ多様な主張を展開し、それを支持する人がいて、結果として市議会に集まってきたわけで、議会は政治的なスタンスの違う人たちが、持論を主張する空間…だと言える。

その主張の機会の1つが、一般質問である。9月議会、さまざまな形で差別発言だと抗議され、市議会の対応も批判されることになった参政党の和田議員の発言も一般質問の中で行われた。通告書を見た段階で、私の考えとは正反対で、とうてい受け入れられるものではない。が、議員には質問権がある。見守ることしかできない。教育委員会はなんと答えるだろう…本当にハラハラした。結果、しっかりとこれまでの取組みを述べていて、ホッとしたのが正直な気持ちだった。

後日、和田議員の発言についての新聞社のアンケートに、私の会派は次のように回答した。

——“社会的伝染”といった言説の引用趣旨が、トランスジェンダーであることを否定的に捉えるニュアンスを含んでいて、差別につながる発言だと

思っている。一方で、議会での発言に対する責任は、発言した議員自身が負うべきだと考える。議会という組織全体がその責任を肩代わりすることは適切ではない。——

議会は行政のチェック機関であつて、議員のチェック機関ではない。政治的スタンスを変えさせることはできない。それでも、対話を通して変化するのはあると信じて。発言の修正、傷ついた当事者へ謝罪をしたらどうか、勇気を出して話しに行った。…簡単にはいかない。でも、今後も対話をあきらめない。

そして、大事なのは行政のチェックだ。「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言（通称レインボーなは宣言）から10年。今回の件で那覇市や議会に寄せられた市民からの抗議の声、要請や陳情は、時代の流れを表面化させてくれた。那覇市を後押しする大きな力だ。積み重ねてきた人権尊重の流れ、レインボー行政の歩みを止めさせない！

来年度の策定に向け、「那覇市性の多様性を尊重する条例（仮称）」の準備が進められている。条例をよりよいものにするためにまずは尽力したい。

＼バックナンバーはHP／



＼インスタグラム／



＼市議会中継録画／



発行：那覇市議糸数たかこ政務活動事務所

所在地：〒903-0806 沖縄県那覇市首里汀良町1丁目9-2 TEL：080-3903-2948 MAIL：itokazu.takako@space-yui.com WEB：https://itokazu-takako.com
たかこ通信は紙面ではなく、EメールでPDFを送ることもできます。Eメール受信に変更したい方は、上記メールアドレスに、お名前と現在通信を受け取っている住所、PDFデータでの通信受け取りに変更したい旨ご連絡ください。

9月議会・一般質問



ひとり親家庭支援

ひとり親家庭の経済的自立を支える「養育費履行確保等支援事業」について質問しました。これは離婚後の子どもの健やかな成長のために、養育費の取り決めや支払いを確実にする支援制度です。那覇市では令和6年度から始まり、弁護士法律相談や公正証書作成にかかる費用の支援、養育費保証契約における保証料の支援が行われています。昨年度実績は、法律相談支援は16件、公正証書等作成支援は7件、保証料支援は0件。予定していたより利用者は少ないとのこと。市は「周知が課題」と述べ、今後はより効果的な広報を検討することとした。

利用者の少なさの背景には、制度の存在を知らない市民が多いこと、また申請までの手続きが煩雑なことがあるのではないかと考えています。必要な人に情報が届くよう、学校や医療機関、弁護士会などを通じた丁寧な周知と、窓口での伴走支援を求めました。

さらに、那覇市のエンゲル係数が全国でも高いという報道を受け、ひとり親世帯について現状把握はされているのか聞きました。令和5年度沖縄県ひとり親世帯等実態調査報告によると、正規雇用の母子世帯の年収が300万円未満の割合は約6割を占めているとのこと。物価高騰対策の継続を求めました。

その他、児童扶養手当現況届などオンライン化についても取り上げ、来年度からの導入が予定されていることを確認しました。



米軍による性暴力と 日米合同パトロール

今年の9月は、1955年の由美子ちゃん事件から70年、1995年の少女暴行事件から30年にあたります。米軍による性暴力は今もなお続いており、沖縄市では「日米合同パトロール」が行われています。那覇市でも協議していると定例記者会見で市長が明らかにしたという報道を受け、私はその実態と意図を質問しました。市は「具体的な協議は行っており、外務省との意見交換の中で話題に出た程度」とし、「一義的には米軍自身の綱紀粛正が必要」と答えていました。

私は、こうしたパトロールは実効性がないこと、むしろ米軍の自由な行動を正当化する免罪符になりかねない懸念を示しました。市長も「法的課題や地域特性を踏まえて慎重に検討する」と答えていますが、毅然とした姿勢を貫くよう求めました。

そしてこの質問をした数日後、沖縄市の街中を米軍が単独でパトロールしている様子が報道されました。日本の警察が米軍基地内に立ち入ることができないのに、ゲートを出てきて沖縄の土地をパトロールするとは、やりたい放題の植民地状態ではないでしょうか。日米地位協定の改定、基地の無条件返還こそ、有効な性暴力防止策です。



学校での性暴力防止に CAP導入を！

県内で発生した学校職員による性暴力事件は、生徒や保護者の信

ないように感じます。登録者減少の原因を調査し、受け止めてほしいです。



放課後、学校の開放を

放課後安心して過ごせる子どもの居場所づくりとして、学校・校庭の活用について川崎市の先進事例を紹介しました。放課後プログラムは現在もありますが、自由に過ごせる居場所を提供できないものかと思います。

性の多様性教育が なぜ必要なのか

「学校でLGBT教育を行うこと自体が、トランスジェンダーを増やすことにつながる可能性がある」という和田議員の一般質問があり、多様性教育がなぜ必要なのか、あらためて考えました。SNSに発信した文章を短く修正して、ここにも掲載します。

性的マイノリティについて学校で教えるのは、3つ理由があると思います。

1つは、今悩んでいる子のため。悩みの渦中かもしれないし、悩みといえるほど自分の状況がわかっていないこともあるかもです。あなたは大丈夫！あなたには人権がある！あなたは大切な存在、のメッセージです。

2つめは、当事者じゃない子のため。そうなんだ、性にもいろんな形があるんだね、差別はいけないうね、と知るため。周囲にLGBTQの当事者の人がいたら「自分はいじわるしない！」という決意をすることにつながります。友達からLGBTQであることを打ち明けられた、あるいは偶然知ってしまったときに、相手を尊重する振る舞いができる人になるのが目的です。

ずっと悩んでいた子に染みる言葉と、このことで悩んだことがない子に伝わるものは違います。それでも、どちらにとっても大事な授業になります。

3つめ。誰もが生きやすい社会をつくるため。現実にはLGBTの人に暴力をふるったり、暴言を吐く大人もいます。LGBTは病気だから治療やカウンセリングが必要だと思っている人もいますが、病気でありません。でも、病気だと思っている人がたくさんいる社会は、当事者にとっては「あなたは間違っている、病気だ」と言われたり、自分で思い込んだりして、やっぱり誰にも言えない空気が漂います。それは誰もが生きやすい社会ではないですよ。教育によって、こどもたちに「誰もが生きやすい未来」を託しているんです。

性の多様性の教育は、あなたもLGBTになりませんか？と勧誘するものではありません。

「あなたは大切な存在なんだ、おかしいわけない」と伝える教育です。仲間を思う気持ちを育てる教育です。誰もが生きやすい未来をつくる教育です。

最後に子どもたちへ、誰がなんと言おうと、あなたは大切な人ですよ



なは市民協働プラザの 老朽化

市民活動の拠点「なは市民協働プラザ」は、建設から22年が経ち、外壁の剥離や屋根の錆など老朽化が進んでいます。8月から劣化調査を実施し、安全確保を最優先に大規模改修を視野に入れて長寿命化計画を進めるとのこと。利用者や子どもの安全のためにも、応急措置や予算確保を早急に行うよう要望しました。